

2 地域医療の進展に貢献

NTTの研究開発技術とDXソリューションにより 地域医療の進展に貢献

医師をはじめとする複数の専門職の連携により支えられている地域医療。人がより良く暮らすために必要不可欠なこの分野でも、地域医療連携の強化、医師の働き方改革やサイバーセキュリティ対策などさまざまな課題への対応が必要とされている。NTTテクノクロスはICTによる業務負担軽減と効率化、さらには新たな価値の創出により、この分野の進展に貢献したいと考えている。

医療情報を安全に扱うために 役立つソリューションを提供

医療や介護分野は労働集約的な産業である。クラウド化やDXが進展してはいるが、近年はさらにサイバーセキュリティの確保も求められており、現場従事者の負担は大きい。このような負担の軽減にNTTテクノクロスが貢献できる分野の1つがセキュリティだ。同社はNTTの研究開発技術を活かしたセキュリティ対策ソリューションを医療分野でも活用していきたいと考えている。

例として、院内・院外と診療データ等の受け渡しを安全に行うための“データブリッジ”が挙げられる(図1)。病院情報システムのネットワーク

(以下、NW)とインターネットにつながる情報系NW間で安全にデータを受け渡しできる環境を提供する。NTTの研究開発技術によりIPパケットを一切通さず、完全なNW分離環境を維持しながら利便性を高めることができる特長がある。

クラウド型多職種連携サービス “ひかりワンチームSP”

在宅医療や地域包括ケアはかかりつけ医師、専門医、薬剤師、看護師、ヘルパー、ケアマネージャーなど、多くの専門職が支えている。患者毎のケア方針や状態変化を共有するために電話やFAXが使われ



NTTテクノクロス株式会社
IOWN デジタルツイン事業部

(右) メディカルビジネス推進部門長 原田 素子氏
(左) 第五ビジネスユニット長 高橋 敏氏

ることもまだ多く、大きな負担になっている。

NTTテクノクロスのひかりワンチームSPは、このような多職種がチームとして患者を支えるためのコミュニケーションプラットフォームだ(図2)。患者毎のケア方針に応じた報告用テンプレートを用意できるほか、状態変化を素早く把握しやすいUI、個別メッセージなど、豊富な機能が用意されている。クラウド型サービスのため導入もしやすい。患者の在宅復帰に向けた医療機関の連携や、自治体と地区医師会、介護施設等が連携し地域の在宅医療・介護におけるコミュニケーションツールとして活用している事例が



図1 データブリッジ

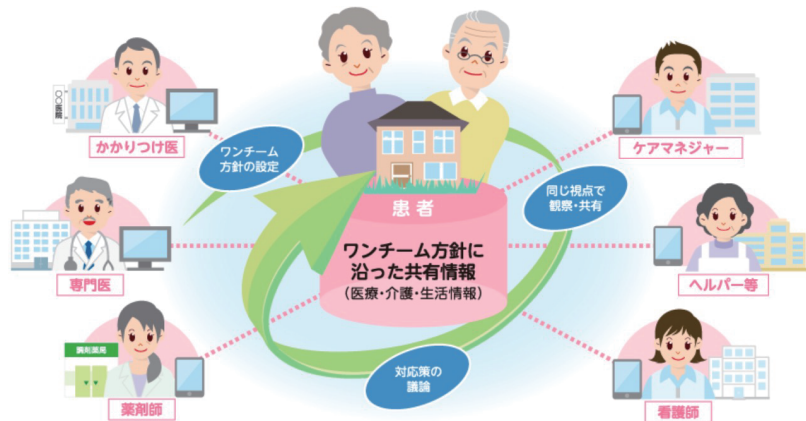
ある。

「今後はバイタルセンシングとの自動連携など、提供価値を増やしたいと考えています。」(原田氏)

メディア処理技術を医療分野に 役立てる取り組み

NTTの研究所が開発した高度なメディア処理技術を医療分野に役立てる取り組みも進めている。本特集4で紹介する“hitoe[®]”の活用もその1つだ。このほか音声認識技術を活用した看護師による電子カルテ入力支援、院内カンファレンスの議事録作成支援、などの業務負担を軽減しようとしている。

「周囲雑音などの影響を考慮しつつクリアに集音し音声認識によりテキスト化することは、まさに我々の得意分野です。ほかにもインフォームドコンセントが適切に行われた記録を取ることに音声認識技術を利用できないか、といったことも考えています。また、音声に含まれる感情を分析するNTTの研究開発技術を活用できないか検証したいという医療ベンチャーから、引き合いもいた



多職種による“ワンチーム”が患者ごとのケア方針を共有し、同じ視点でケアに取り組めるよう支援します。

図2 ひかりワンチーム SP

だいています（「お客様の声」を参照）。」（高橋氏）

価値提供型で持続性のある ビジネスを成長させていく

ヘルスケア・メディカル事業全般のビジネス戦略を担う組織として立ち上げられたメディカルビジネス推進部門を統括する原田氏は、地域医療に貢献するソリューションを展開したいとして、次のように述べている。

「我々はこれまで得意とするソフトウェア開発技術を活かしICTを

部品として提供する機能提供型のソリューションになりがちでした。現在取り組んでいるのは医療や介護、健康管理に従事される方々にとってより意味のある価値を提供することです。我々だけではできないので、NTTグループ内外の企業とも連携しながら、価値提供型のソリューションを提供したいと考えています。地域医療を支える一員として責任を持ち、持続性のある事業展開を目指していく方針です。」(原田氏)

お客様の声

北大発スタートアップ企業に認定されている株式会社Medi Faceは、精神科・心療内科向けのオンライン診療プラットフォーム“Mente（メンテ）”、およびBtoB向けの“Mente for Biz”を提供している。

「Menteでは、自身のメンタル状況をチェックできるAIドクターを提供しており、いつでもどこでも誰でも無料で利用可能です。メンタル不調の予兆を検知し、必要に応じてシームレスに医療につなげます。ほかにも時間のかかる診療を効率化し患者負担を軽減できる、医師には人間が提供すべき診療行為に注力してもらえる

といったメリットもあります。

AI技術を駆使して声の様子、顔の様子、問診の回答内容を解析するのですが、その精度を高めることに取り組み続けています。そのために産学連携等も進めており、その一環で音声から感情を解析することに取り組んでいます。この音声解析には、音声に含まれる感情分析で実績のあるNTTの研究開発技術を利用したいと考えており、近く実証実験も行う予定です。NTTはhitoe[®]のような医療機器の提供も行っているため、AI技術に限らず医療分野で協力していただけることを期待しています。」(近澤氏)



株式会社 Medi Face
代表取締役・医師・産業医
近澤 徹氏